

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473800611	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	特定非営利活動法人 都筑の丘		
事業所名	グループホーム 都筑の丘		
所在地	(〒224-0057) 神奈川県横浜市都筑区川和町1705		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年6月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH都筑の丘は今年の3月で開設13年になります。開設当初からご入居の方が2名、90歳以上が9名で最高齢は101歳で皆様の目標です。加齢という現象と認知症の進行により機能低下もできています。ホームでの生活を楽しくいただくことを1番に考えて様々な取り組みをしています。中でも口から美味しく食べることを大切にして日々の食事を全て手作りしています。外食に行ったり、地域の中華料理屋さんからラーメンの出前をとったり、おはぎを作ったり畑で収穫した野菜で豚汁を作り食べる喜びと食べられる事を大切にしています。本当の我が家ではないけれど、より近く入居者様とご家族から「都筑の丘はいいところ」と思って頂けるよう職員は日々努力をしています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地ビル9階		
訪問調査日	平成29年2月24日	評価機関 評価決定日	平成29年6月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> この事業所は、横浜市営地下鉄グリーンライン川和駅から徒歩10分程の田畑に囲まれた里山の風景が残る住宅地にある。初代理事長は、地域の高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにこの事業所を開所した。3ユニットの事業所で2000坪の敷地に、平屋と2階建ての2棟がゆったりと建てられている。 <b>【理念を共有し実践する】</b> 「認知症であっても、その人らしく」を基本理念に開所した事業所は、四季を彩る樹木が2棟を囲んでいる。各ユニットの居室も広く、自由にベランダに出て風景を眺めることができる。事務室は食堂に隣接し、四季の食材が並ぶキッチンから利用者は見守られている。この事業所では、夕食前後に入浴時間が設定され、希望により就寝前に毎晩入浴することもできる。利用者の今までの生活リズムが変わらないよう配慮し、利用者の希望に添った支援を行っている。 <b>【事業所と地域とのつきあい】</b> 代々、地元で暮らす理事長夫妻が運営する事業所は、事業所主催の納涼祭や地域の行事、地元の小中学校との交流の機会も多く、職員、家族、利用者が積極的に参加している。また、施設周辺の畑は、専属ボランティアにより手入れがされている。事業所は音楽療法を隔月で行い、コンサートや絵手紙などのボランティアも来訪している。災害時には、テントや食料を備え、事業所が地域を支援する準備も整っている。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 都筑の丘
ユニット名	みずき棟・やまぶき棟・あじさい棟

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に5つの理念を明記してある。その中に地域社会の一員として心豊かに生活を送れるように支援しますが入っています。毎月曜日の朝礼時に復唱しています。	事業所の開所時に、理事長を中心に基本理念をもとに、5つの理念を作成した。職員は、その中の「5感を刺激し、個人の能力が発揮できるように支援します」との理念を理解し、家庭的な雰囲気の中、四季を五感で感じてもらえるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の皆様が常に見守ってくださり感謝です。先日も単独外出した入居者を保護していただきました。川和町の氏神様の初詣、町内会の盆踊り、ホームの納涼祭には全面協力いただいています。	地元の認知症高齢者と家族のために設立した事業所で、地域密着を実践し、地域の方からも事業所行事への協力が得られている。保育園児、小中学生との交流の機会も多くあり、絵手紙、音楽療法などのボランティアも定期的に来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	川和小学校の認知症サポーターの講師、近隣の中学校の職場体験、夏休みのボランティア体験の受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度から定期的に2か月に1度運営推進会議を行っています。委員の方々にはホームの行事にも参加していただいています。	運営推進会議は偶数月の第3土曜日に開催しており、家族、町内会長、婦人会長、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加している。事業報告を行い、行事への参加と協力を依頼し、支援を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の研修、勉強会にも積極的に参加し、区役所主催の認知症サポーター連絡会、認知症フォーラムのスタッフとして活動している。	都筑区高齢支援課に、運営推進会議の報告を行っている。生活保護の方の入居について、市のケースワーカーと相談し連携している。施設長、職員は認知症とグループホームの理解を深めてもらうため、認知症フォーラムに参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという前提でケアを行っている。玄関の施錠に関しては周囲の環境、認知症であるが故、必要な方法であることをご家族に入居時に説明してご理解頂いている。	身体拘束をしないケアを行い、夜間の転倒予防のため、必要な利用者には、離床センサーを設置している。家族に同意を得て、玄関は施錠しているが、午前、午後と散歩の機会を多くし、抑圧感のない暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	認知症の進行により、予測できない事や入居者からの暴力、暴言も多くなっています。そんな時、職員のストレスは大で虐待に繋がります。そうならないように職員間の協力が必要で虐待を見逃さないことです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は自立支援の重要性を理解しており、日々実践している。権利擁護に関しては地域の住民の為に勉強会を企画し職員も参加したことがある。成年後見人の必要性は理解している。制度を利用されている方もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時相談員が利用者、及び代理人の権利（第10条）義務（第13条）契約解除（第14条）をわかりやすく説明し、納得していただき同意を得て契約している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られることが多い土日祝日は施設長、ホーム長は出勤するようにしており、ご家族と対応するようにしている。そこからケアプランに繋げて反映させています。	家族からの相談・面談時には、応接室で丁寧に対応している。行事報告の会報と利用者の様子を記した報告書を毎月送付している。家族アンケートより「トイレが暗い」との意見があり、トイレの壁紙を明るくした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のワーカー会議で出た問題点、改善案などはその場で解決し、即実行している。各行事の実行委員による反省会が出されたことは来年度に反映されている。	各ユニットの計画作成担当者との全体会議とユニット毎のワーカー会議を毎月行っている。施設長、副理事長共に業務を兼務し、職員との距離は近い関係にある。行事は、全職員がそれぞれ役割を担い行うなど職員間の協力体制ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の持っている能力、実績、貢献度などを公平に見極め、職員が向上心を持って安心して働けるよう努力している。介護職員処遇改善交付金は年3回支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、介護支援専門員の受験時は勤務の便宜を図っています。社内研修は会議の時にタイムリーな課題で行っています。社外研修にも参加できるように考えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜高齢者グループホーム連絡会、神奈川高齢者認知症グループホーム協議会に加入し複数連携事業にも参加し交流をしている。都筑区のキャラバンメイトとして活動している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族に作って頂いたアセスメントをもとにしながらお話をします。入居初期は緊張や不安が多く、職員だけではなく、他入居者にも協力していただいで対応をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者さんに対するの思い、ホームに対する希望など遠慮なく言える雰囲気を作り、ご家族が安心して頂ける環境を作っている。納得出来るまで見学相談をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人の不安な気持ちを理解し、あせらずに根気よく対応をしている。帰宅願望はあって当然と職員は理解して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	9人の入居者と職員が下宿屋さんのように暮らせることが理想。それぞれの得意分野を職員が把握し協働している。時にはトラブルも発生するが、それも日常生活と捉えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはいつでも、気軽に来て頂ける様にしている。家族と職員が協力しあうことが入居者さんの安心と安定に繋がると思って援助している。ご家族にさせていただくこともケアと考えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで過ごされた環境を大切にし、家族、友人の訪問、外出はとても良いことだと思っています。	家族や友人の訪問が多くある。事業所主催の納涼祭では、利用者全員が浴衣を着て参加し、家族や友人と一緒に楽しんでいる。家族と墓参りや外出する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を職員が常に視野にいれている。お互いに訪室し、おしゃべりをしていることはとても良いことだと思っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現段階では該当するケースはありません。今後必要なケースが出現した場合は相談、支援していきたいと思います。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	帰宅願望、入浴拒否はあって当然と受け止め、ご本人の気持ちを大切にしながら対応している。困難な時はご家族に協力していただくこともあります。	職員は、常に利用者の表情や態度の変化などを注視し、理解に努めている。また、職員間で情報を共有し、必要に応じて家族と相談しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に幼少時から現代までの状況をご家族と一緒にアセスメントを行い、今後のケアに反映させている。お話の中ででてくる分からない事はご家族にその都度お聞きしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調、気分、天気等を視野に入れながら過ごしていただいている。手伝いをさせていただくことで職員も助かっていることが多い。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体の状態や認知症の進行等でトラブルが生じた時は、その都度職員同志で話し合いご家族に相談し早い対応をしています。介護計画の目標が達成できるように実施状況を毎日意識してケアを行っています。	職員が利用者の全体像をアセスメントし、ケアプランに反映させている。毎月のワーカー会議でモニタリングを行い、通常半年で見直しを行っている。利用者の様子は、業務日誌に記入するほかパソコンに入力している。施設長は職員が記録業務に時間を取られているため、工夫をしていきたいと考えている。	記録業務にかかる時間減のため、様式や記録方法の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は報告書を毎月ご家族に送付しています。職員間の業務日誌、連絡ノートは出勤したらすぐに目を通し情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携、川和町町内会、婦人会、地元の消防団、保育園、小・中学校、学童保育、地域包括センターなど多くの協力を得て多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	書道、絵手紙、音楽療法、園芸療法、お茶会、納涼祭、餅つき、囲碁などの地域ボランティアの方たちのご協力、ご近所の方たち見守り助言などを頂きながら安全で豊かな生活が送れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医（内科・整形外科・歯科）による、定期的な往診。急変時の対応もしてくれるので職員も安心している。入居者も顔なじみのドクターに安心されている。	月2回、内科・整形外科の往診医がそれぞれ来訪している。認知症専門医には5～6名の利用者が受診し、往診医と連携している。通院時には、施設長が同行し日頃の様子を伝えている。眼科・耳鼻科は家族対応で、受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護職員と往診・受診の時に相談できるようにしている。電話での相談もいつでも快く対応してくれるので心強いです。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、カンファレンスにはホーム長、管理者が同行して病院との連携を計っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は医療と家族と一緒に話し合い、ホームでできる範囲のケアを職員と検討し行っている。介護保険上の看取りはしていませんが、現実にはそれに近いケアをかかりつけ医に相談しながらしています。	看取りを行ってはいないが、最期に近い状態まで家族、主治医と相談しながら対応し、最終段階で入院している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で応急手当の訓練を行っている。また、救急マニュアルを緊急時すぐに見ることが出来るようにしている。事故が発生した時はそれを教訓として事例検討している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	歩行できない入居者（特に2階）を救助する訓練をしています。認知症であることで他所での避難生活は難しいと思っています。広い敷地を利用した避難生活考えています。	夜間想定避難訓練を年2回行い、地域の防災訓練にも職員が参加している。備蓄も1週間分の用意がある。災害時には事業所で、地域の高齢者を受け入れる予定である。	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切にする言葉掛けを行いながらその人らしい生活をができるよう努力している。そのためには入居者を理解することが大事だと思っている。	認知症が進行し、できないことが多くなっても、職員は言葉かけだけではなく、できることを一緒に行うようにしている。また、利用者同士の関係が悪くならないように職員が仲介している。個人情報を含む書類は、リビングに隣接した事務所で保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや気持ちが表現できるような環境、雰囲気を作っている。散歩、レクリエーションなどの参加も自由に入浴時間なども希望の時間になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分を優先して一人ひとりのペースを大切にしている。一日のスケジュールは特に決めず、天気、入居者の希望を優先している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ自分で決めています。できない方は職員がご本人に聞きながら着ていただいています。季節、色の組み合わせ等を配慮してコーディネートしています。時にはお化粧をすることもあります。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭き、食器をしまう等一人一人の得意な事をいただいています。外食や出前をとったりすると喜ばれます。献立がマンネリ化すると管理栄養士に伝えメニュー変更しています。	食事は、管理栄養士が作成した献立・レシピを基に、職員が手作りしており、汁物は出汁からとっている。毎日、近隣の商店から次の日の食材を配達してもらっている。事業所の広い敷地で栽培している野菜や果物などが食卓に上ることもある。食事は職員と一緒にゆっくり過ごす時間となっている。ユニット毎に外食や行事食にも対応している。近所の中華料理店からの出前を楽しむことができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの良い献立に季節の旬の物を取り入れてもらっている。歯の状態、嚥下低下に合わせて対応している。食べにくかったり、不評のメニューは栄養士に伝え変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日に歯科衛生士による口腔ケアを行っている。職員も歯科衛生士による口腔ケアの指導を受けている。毎食後に職員が歯磨きの見守り、介助をしている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、トイレの声かけを行い、リハビリパンツを使用してもトイレでの自然な排泄ができるように支援している。夜間もトイレで排泄できるように時間でトイレにお連れしています。	トイレは各ユニットに3か所あり、壁紙を明るい色にしている。排泄パターンを理解し、失禁を減らせるように支援している。日中だけではなく夜間もトイレでの排泄ができるように必要な利用者には離床センサーを設置し、事前に感知してトイレに誘導している。	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が不穏の原因の1番であり認知症の発症原因であることを職員は理解して観察しています。1日2回の体操、ストレッチをしています。かかりつけ医に相談しながら便秘薬の調整をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日おきの予定があるが本人の気持ちを大切に、希望にあわせて入浴出来るようにしている。入浴拒否の強い方には無理じいはずに気持ち良く入っていただけるよう努力している。	一日おきを基本に、夕食前後に入浴している。毎日入っている利用者もいる。入浴を好まない利用者には、声掛けを工夫している。入浴介助は、1対1の時間であり、全身状態を知ることができる大切な機会と考え支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来る限り、お手伝い、入居者同士のおしゃべり、散歩、余暇支援をすることが夜間の良眠になる。疲れたら適度に居室で休息したり、昼寝をしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬のことがすぐ分かるように薬情書、また与薬時の誤薬の防止のための服薬管理表がすぐ見られるようにしてあり、薬の変更、増減、中止などがある時は連絡ノート、引継により徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の得意なこと、好きな歌を職員が理解して得意分野が発揮できるような場面を作っている。役割があることが自信になっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然恵まれた環境なので、天気の良い時は午前、午後と散歩にお連れしています。全棟行事としてご家族にも協力していただき春・秋の遠足をしています。	事業所の周囲を散歩している。春、秋には、事業所の車で遠足に出かけ、現地で家族と合流している。ご家族の協力を得て買い物に出掛ける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症であることによる、金銭トラブル、妄想等の出現あり、金銭は預からざるを得ない。ご本人には家族が預っていることを納得して貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の場合はご家族の了解を得た上で、掛けたいと言われた時にホームから家族、友人に電話をかけている。自分で描かれた絵手紙を友人、家族に出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式のキッチンで調理をしている職員と話をすることができる。程良い明るさと音量で心地よい環境作りをしています。CDの曲も季節、好みで選んでいます。左右の大きな窓からは外が見えます。	各ユニットの中心に食堂、居間があり、窓からは庭の桜を見ることができ。床暖房や加湿器を完備しており、温湿度に配慮している。平屋のユニットで、音楽療法や絵手紙、コンサートなどが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが2つ置いてあり入居者同士がおしゃべりをしたり、夜はテレビを一緒に観ています。ソファが一人になれる空間にもなっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、お気に入りのカーテンなどそれぞれの入居者が工夫して生活しているが、認知症の進行により危険物と判断した場合はご家族に相談し撤去している。	すべての居室はゆったりと広く、ベランダに自由に出ることができる。空調設備、照明、レースのカーテン、クローゼットが設置されている。利用者はベッド、テレビ、籐の椅子、家族写真などを持ち込み、個性的な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広い廊下とリビング、ダイニングを介してさりげない見守りができるように対面式キッチンにしてあり。食事の盛り付け、配膳、食器拭きなどのお手伝いなどが安心してできる。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム都筑の丘

作成日 平成29年6月27日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	記録業務にかかる時間減のため、様式や記録の方法の工夫を期待します。	職員が日々記録に関わる時間が短縮でき、入居者と関われる時間を多くとれるようにします。	業務日誌、家族に送る報告書、身体生活のチェック表、職員間の連絡ノート、ケアプラン実施表等があります。同じことが重複しないように無駄のない書式と方法を職員と検討いたします。	1か月～2か月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。